

かざ

ぐるま

# 風車

紀州の歴史と文化の風

文化財センター季刊情報誌【かざぐるま】

2021 夏号 **95**

公益財団法人 和歌山県文化財センター

特集

あつそ  
且来VI遺跡の発掘調査について  
〈新たに発見された方形周溝墓〉





# 特集

## あつそ 且来VI遺跡の発掘調査について 新たに発見された方形周溝墓

### 且来VI遺跡とは？

あつそ 且来VI遺跡は、海南市且来に所在し、東西約320m、南北約270mの範囲に展開する弥生時代から奈良時代の集落跡として知られている遺跡です。海南市の北部を東西に流れる亀の川の南岸に位置し、亀の川によって形成された扇状地の西端と沖積平野の東端に広がっています。

和歌山市と接する海南市且来地内周辺には且来VI遺跡の他にも、多くの遺跡が存在しています(図1)。周辺に所在する且来I遺跡、且来III遺跡、亀川遺跡、岡村遺跡等では、縄文時代後期から人々の活動の痕跡が確認されています。また、亀川遺跡、岡村遺跡では、弥生〜古墳時代から集落が営まれていることがこれまでの調査で明らかになってきました。また、古墳時代になると、周辺には岡村古墳群、岡田八幡神社古墳群、山崎山古墳群、室山古墳群など多くの古墳が造られるようになります。

且来VI遺跡は、これまで海南市教育委員会や海南市文化財調査研究会による発掘調査

が行われており、弥生時代から古代にかけての土坑、柱穴、建物跡が多数発見されてきました。特に平成6・7年度に行われた遺跡南

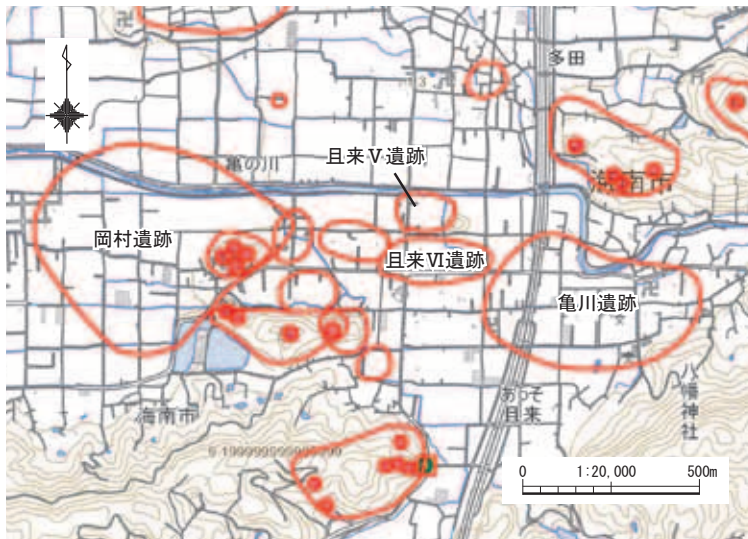


図1 且来VI遺跡周辺の遺跡地図

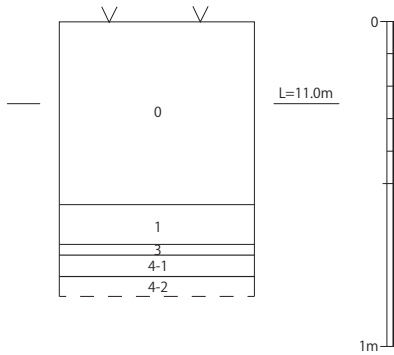
東部の調査では掘立柱建物跡が複数見つかっています。また、且来VI遺跡の北に位置する且来V遺跡では、円面硯(陶器で作られたすり)などが複数出土することなどから、且来V・VI遺跡周辺には、郡衙や屯倉といった古代の公的な施設があった可能性が高まっています。



図2 且来VI遺跡トレンチ位置図

## 令和2年度の調査

令和2年度に和歌山県より委託を受け、当センターが実施した且来VI遺跡の発掘調査は、県道秋月海南線道路改良工事に伴うもの



- 第1層：造成以前の水田耕作土
- 第2層：造成以前の水田耕作土に伴う床土
- 第3層：弥生時代～古代の遺物が多く出土する。中世の遺物を若干含むことから、堆積した時期は中世以降と考えられる。
- 第4-1層：上面が弥生時代末～古代の遺構面
- 第4-2層：上面が弥生時代中期から後期の遺構面

図3 且来VI遺跡調査区南端部の基本層序



写真1 1-2区第1遺構面（北から）

です。且来VI遺跡の、やや西寄りの部分を調査しました（図2）。調査は、令和2年11月16日～令和3年3月5日まで、418.1㎡を対象に実施しました。

発掘調査によって、調査区には大きく5つの土層が存在することが明らかになりました（図3）。特に、上面が弥生時代末～古代遺構面の第4-1層（第1遺構面）、弥生時代中期から後期遺構面第4-2層（第2遺構面）があることが明らかとなり、大きく二つ



写真2 1-2区第2遺構面（北から）

の時代の情報を得ることができました。

発掘調査では、主に弥生時代中期～後期の土坑、柱穴、溝、方形周溝墓、弥生時代末～古墳時代・古代にかけての土坑、柱穴、溝等を発見していますが、3～5区では、中世～近世とみられる井戸、土坑等も見つかっています。これらの遺構からは弥生土器、土師器、須恵器、黒色土器、瓦器、土錘、石鏃等多種多様な遺物が数多く出土しました。

特に調査区南部の1・2区では、二つの遺



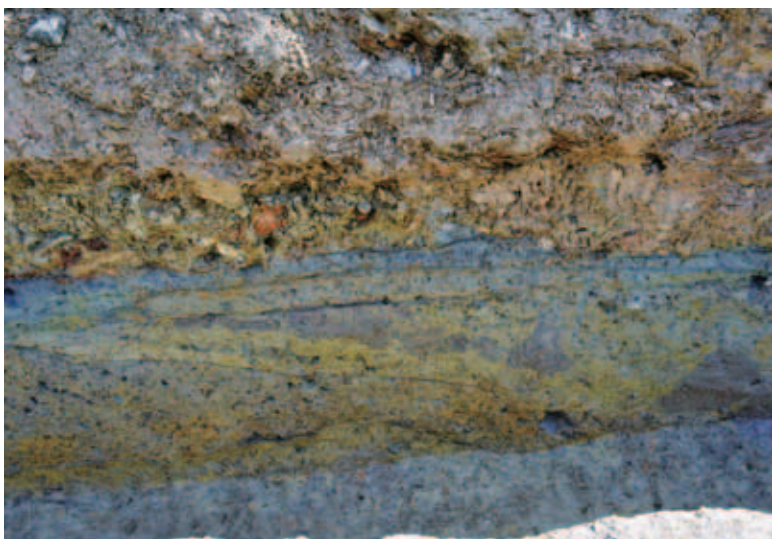


写真3 3区東壁土層断面（西から）造成のための盛土が確認できる

構面がはっきりとわかり、遺構がよく残っていました。（写真1・2）。一方で、3～5区でも、遺構面2面が見つかっていますが、中世以降に大量の土砂で低い地面を埋めて、水田に適した土地を作り上げていたこと（写真3）や、1・2区で確認した2つの遺構面の残り方があまり良くないことが明らかになりました。これらの調査区の土層の上には、一部で砂と砂礫が互層状に堆積しており、これは亀の川によって大きな洪水などが引き起



写真4 方形周溝墓の溝から出土した土器と溝の内部の断面土層の状況（南東から）

調査での大きな成果の一つとして、2区で確認された方形周溝墓があります。方形周溝墓は、遺体を埋葬する部分の周りに溝を掘り、その内側に盛土する弥生時代の墓です。当初は方形周溝墓とは思わず、溝として調査を進めていました。しかし、掘り進めていくうちに、溝の底に完形品の弥生土

### 見つけた方形周溝墓

され、当時の地面が大きく削られたり、逆に低い部分が大量の土砂で埋められてしまったりしたためと考えられます。



写真6 弥生土器が出土した溝（完掘状況・北から）



写真5 土器の周りの土を丁寧に取り除いていく

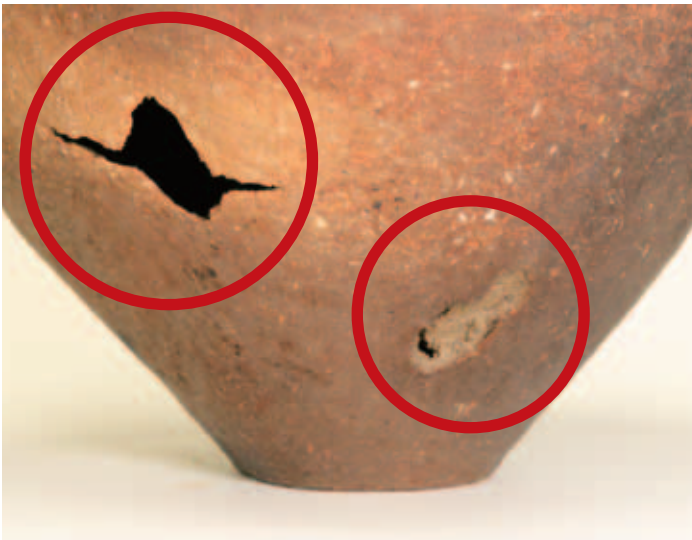


写真8 人為的に開けられた2か所の穴



写真7 方形周溝墓から出土した弥生土器の壺

器の壺が横になっていることが明らかとなりました（写真4・5）。この土器が出土した溝の大きさは、北東から南西に延びる長さ約3.0m、幅1.7m、深さ0.5mです（写真6）。この溝から見つかった土器を観察してみると、2か所に人為的な穴が開けられていることが分かりました（写真7・8）。

このように、墓に供えた土器を「供献土器」と言い、土器に穴を開けて、わざと使えない状態にしていたと考えられています。このため、この土器が出土した溝が弥生時代のお墓である方形周溝墓であることが明らかとなりました。今回確認した且来VI遺跡の方形周溝墓の遺体が埋葬されている場所（主体部）は確認することができませんでした。方形周溝墓が見つかった2・2区から北側は、亀の川の洪水とみられる土層が確認できたため、洪水の影響で主体部が削られてしまったと考えられます。土層や溝の方向、周辺の状態から、主体部は溝の北側にあったと考えられます。

### 明らかになる且来VI遺跡の姿

これまでの且来VI遺跡は、弥生時代から奈良時代にかけての集落跡として知られていました。今回の発掘調査でも、且来VI遺跡の南部では、これまでの調査成果と一致する、

古代の掘立柱建物跡が確認されました。

一方で、弥生時代の遺構については、溝や土坑などが確認できましたが、竪穴建物跡など集落の痕跡をうかがわせるような遺構は、今回の調査では確認できませんでした。これは、平成6・7年度の発掘調査でも同様です。

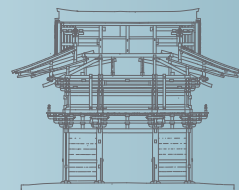
また、今回の調査では方形周溝墓の溝が発見され、更に平成6・7年度の調査でも方形周溝墓の可能性がある溝が遺跡の南東部で見つかっています。周辺の遺跡では、且来VI遺跡の西に岡村遺跡、東には亀川遺跡が所在しており、同じように弥生時代の方形周溝墓や土坑墓が確認されています。

この2つの遺跡は、弥生時代に集落として栄えていたことが、これまでの調査で明らかとなっています。これまで考えられていた且来VI遺跡の集落としての性格に加え、弥生時代における墓域と集落との関連性などを検討していく必要があります。

今後、周辺遺跡の更なる調査や、出土した遺物や、記録・写真等の整理を通して、更に詳細な海南市且来周辺の姿を明らかにしていくことができると考えています。

（濱崎範子）





## 金剛峯寺奥院経蔵の保存修理

連なる峰が小さな盆地を囲う様子が蓮の花にたとえられる高野山。盆地東側に立ち並ぶ杉の巨樹の下で苔生す大名たちの墓所の間を進んだ奥、玉川の清流に架かる橋の先に奥院は位置します。燈籠堂の奥には結界が巡らされ、弘法大師空海の御廟が開かれています。この冷厳なる地の南東に、奥院経蔵はひっそりと佇みます。

経蔵は、高野山の再興に尽くした木食応



金剛峯寺奥院経蔵の修理前全景



経蔵内に組みこまれた輪蔵上部  
一切経は霊宝館（高野山の博物館）に収蔵



輪蔵の長押下面に描かれた霊鳥

其上人の勧めにより、石田三成が慶長四年（1599）に建立した宝形屋根檜皮葺きの建物で、重要文化財に指定されています。

経蔵の内部には八角形で回転式の輪蔵が組みこまれており、輪蔵に設けられた棚には高麗版一切経6285帖（重要文化財）が納められました。この輪蔵を手で押すことにより、経典を回転させると、読経することと同じ功德が得られると考えられており、チベット仏教のマニ車とも共通する文化として、興味深い装置でもあります。

この輪蔵には、組物で支えられた軒や、腰組なども備えられ、独立した建築としての様式が整えられています。また柱や組物などの要所には華麗な彩色が施されており、経蔵本体の内部壁面にも仏画が残りま

す。桃山期の建築彩色としては状態も良く、極めて貴重な遺構として評価されています。前回の屋根葺替工事が実施されてから20年足らずではありますが、屋根全面で腐朽が進んでいたため、国庫補助事業として令和2年度からの2ヶ年で修復を行う計画となりました。また内部では獣害による部材や塗装の破損も認められたため、あわせて彩色剥落止めや木部修理を施工します。

高野山は寒冷多湿と塗装の工事には厳しい環境であるため、剥落止めは試験施工で得た成果を反映し、十分な気温となる本年7月から進める方針としました。また屋根や小屋組の工事は振動を伴うため、塗面の安定を確保した後、今秋頃からの施工とする工程に計画を変更し、檜皮材の調達や抑えを先行して進めています。（多井忠嗣）

## 文化財建造物課 細部を見つめる ～登り軒付の飾り

昨年度、修理を行った九度山町の丹生官省符神社の第一殿から第三殿すべての屋根には、正面千鳥破風の登り軒付部分に飾り金物が3ヶ所ずつ配されています。修理にともない取り外してみると、木杭に釘留めした3cm角の銅板が、檜皮の積層に差し込まれていることがわかりました。このような装飾は他に実見したことがない仕様で、色々と調べてみましたが、現存する例を認めることは出来ませんでした。

類例は現時点で、かつらぎ町所在の丹生都比売神社本殿の修理工事報告書（昭和52年発行）に掲載の修理前写真で確認しましたが、配置も員数も異なります。当初あるいは中古の仕様なのか、地域性もしくは祭神に依るものか、はたまた違う意味があるのか等、現在は、判然としませんが、どちらも高野山麓に所在することを糸口にして手がかりを探し続けようと思います。

今回、取り上げた事例の他にも、文化財建造物の細部に焦点を当て、修理工事での気づきを紹介する機会があればと考えています。

（大給友樹）



丹生官省符神社 千鳥破風まわり  
(第一殿)



丹生官省符神社 装飾取り外し状況  
(第二殿)



類例の丹生都比売神社 (第三殿) の  
修理工事報告書掲載の写真

## きのくに歴史小話

～きのくにれきしこぼなし～

## 埋蔵文化財課 考古学と埋蔵文化財発掘調査

考古学と埋蔵文化財発掘調査は、同じものと捉えられがちですが、実はその目的が異なることはご存じですか？

考古学は、遺構や遺物等のモノから歴史を解明していく学問で、その研究資料を得る手法の一つとして発掘調査を行います。一方で、埋蔵文化財発掘調査は、開発によってやむを得ず壊されることになった埋蔵文化財（いわゆる遺跡）を、せめて写真や図面などでの記録（発掘調査報告書）として残しておくという考えのもとで考古学の発掘調査の技術を用いて行う調査です。このような違いがあるとはいえ、埋蔵文化財発掘調査の成果が考古学研究の進展に寄与していることは同じです。調査によって得られた遺構や遺物といった資料は、考古学によってわかってきた歴史を表す証拠となります。

しかしながら、埋蔵文化財発掘調査によって調査された遺跡のうち、遺物は保管されて未来へと引き継がれていくものの、大半の遺構は残念ながら写真や図面という記録でしか残らず、実際に見ることが未来永劫、叶わなくなってしまうかもしれません。かといって、遺跡を全て現地で保存すると、道路が作れなくなったり、建物を建てられなかったりと県民の皆さんの生活にも影響が出てしまいます。そのため、埋蔵文化財発掘調査は、そのせめぎ合いの中で、記録によって遺跡を保存することでバランスを保つ手段でもあるのです。

また、発掘調査は、遺跡を壊しながら調査をしていくため、後戻りのできない実験的調査の側面も持っています。そのため、私たち文化財センターとしても日々、この調査方法でいいのか？遺跡の声を全て記録できたか？など、自問自答しながら調査を進めています。

当センターでは、今後見られなくなる遺構を中心に県民の皆様に見ていただく機会として現地説明会の開催などを行っています。これらのイベントにお越しいただき、その目に和歌山県の歴史の証拠を焼き付けていただければ嬉しく思います。

（高橋智也）

## 催し物案内 和歌山県内の文化財関係イベント情報 (2021年夏～2021年秋)

### 和歌山県立紀伊風土記の丘

- 夏期企画展「古代紀伊の神まつり」 2021年 7月17日(土)～2021年 8月29日(日)

### 和歌山県立博物館

- 夏休み企画展「かたちのいみ えがかれたものがたり」  
2021年 7月17日(土)～2021年 8月22日(日)
- 企画展「きのくにの宗教美術 — 神仏のさまざまな姿 —」  
2021年 8月28日(土)～2021年10月 3日(日)

### 和歌山市立博物館

- 企画展「アッ！と驚く意外な歴史 — 君も歴史博士になれる —」  
2021年 7月17日(土)～2021年 9月 5日(日)

### 高野山霊宝館

- 高野山霊宝館開館100年記念 大宝蔵展「高野山の名宝」  
2021年 4月17日(土)～2021年11月28日(日)

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、期間変更や中止となる可能性があります。  
掲載内容は変更される可能性があります。詳細は各施設へお問い合わせください。



#### 目次

- 1 表紙
- 2 特集「且来VI遺跡の発掘調査について～新たに発見された方形周溝墓～」
- 6 文化財建造物課 短信「金剛峯寺奥院経蔵の保存修理」
- 7 きのくに歴史小話「細部を見つめる～登り軒付の飾り」  
「考古学と埋蔵文化財発掘調査」
- 8 催し物案内

## 風車95 (2021・夏号)

令和3年7月31日

(公財)和歌山県文化財センター

URL <http://www.wabunse.or.jp/>

(公財)和歌山県文化財センター

【事務局】 〒640-8301 和歌山市岩橋1263番地の1  
TEL 073-472-3710 FAX 073-474-2270  
kanri-2@wabunse.or.jp



LINE公式アカウント

ID : @942tjyhk

